学位被授与者氏名	徐　珂（じょ　か）
論文題目	非類似者への対人魅力と自己の多面性について
論文審査結果の要旨	他者への好意と態度の類似性に関する研究は社会心理学において古くから議論されていた問題であるが、非類似の他者への好意に影響する個人差要因を取り上げた研究はそれほど多くはなく、その点で独創性のある切り口といえる。差別や偏見、いじめなどの背後に他者との非類似性が影響していることから社会的にも重要なテーマである。 他者への好意と態度の類似性に関する先行研究は十分に読み込まれて適切に引用され、それをふまえたうえで本研究の仮説構築が行われている。場面によって柔軟に変化する適応的な自己は、他者からも脅かされない頑強さがあり、非類似の他者を受容できることから好意度が高まるという仮説が提示されたが、これを検証するため調査方法の設定や尺度の選定には精緻さに欠けていたところがあり仮説も支持されなかった。しかし調査の具体的な方法や分析は適切に行われており必要な考察もなされている。また、調査１の方法上の問題点を謙虚に見直して２つ目の調査まで実施した持続的な探求心は評価できる。 ２つの調査で得られた結果については、一つ一つの解釈に終始してしまったところがあり、他の研究と比較しつつ本研究を位置付けるような考察ができているとは言い難い。しかしながら、自己の安定性と好意度に関連する数多くの測定法がある中で、本研究で選び出された自己の多面性の指標と親密感を測定する尺度得点との間に有意な関係が見出されたことは、たとえ仮説と逆の関係だとしても大事な成果である。場面によって自己を変化させる多面性は適応的であるという、この分野で一般的に論じられてきた仮説に対して、自己の多面性は非類似の他者への好意を低下させるような何らかの否定性をもたらしうる、という今後の議論につながるデータを提供したからである。 2024 年 2 月 20 日に、北九州市立大学北方キャンパス本館 D-203 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。